

JRA競走馬総合研究所スタッフが語る

サラブレッド のおはなし

和田隆一

(JRA競走馬総合研究所・所長) = 文
text by Ryuichi Wada

今回から、JRA競走馬総合研究所(以下、総研)が、サラブレッドのサイエンスという内容のコラムを担当することになりました。私も総研のスタッフが、競馬ファンの皆様にサラブレッドにまつわる四方山話を、サイエンス情報として提供していきたいと思っています。

まずは初回ということで、総研について概略を紹介します。総研は1959年に、競走馬の保健衛生の向上を図るために設立されました。その後、わが国の競馬の発展とともに研究施設および陣容を拡充し、今日では競走馬のスポーツ科学、スポーツ医学、伝染病、栄養、繁殖、馬場など、様々な角度から馬と競馬に関する研究を行っています。

最近の話題に関連した研究テーマとしては、**空を飛んでいる**といわれた**ディープインパクト**の走行フォームの解析、**オグリキャップ**や**トウカイテイオー**などが苦しめられた**屈腱炎**のリハビリテーション、**馬インフルエンザ**などの伝染病対策、**ニューボルトラック馬場**の開発に関する研究などがあります。その他にも、総研は競走馬の**ライフサイクル全般**を通して、**強くて丈夫な馬づくり**に関わる多くの研究テーマに取り組んでいます。

ここ数年、総研がとくに力を入れているのが、「**世界に通用する強い馬づくり**」をめざし

サラブレッドに関する多くの科学的知見がJRA総研では蓄積されています

て、スポーツ医学の面から競走馬を支援する研究です。これは、獣医学を基礎として、フィットネス、メディカル、栄養など多方面から競走馬を総合的にチェックし、競走能力向上やコンディショニングに役立つデータを提供したり、アドバイスしたりするものです。昨年、わが国では36年ぶりに馬インフルエンザが発生し、あつという間に日本全国に広がりました。しかし幸いなことに、競走馬にはワクチン接種が徹底されてしまったので、思ったほどには大きな被害になりませんでした。これは本病の簡易診断法を確立し、ワクチンによる予防を推進してきたことが役立つもので、総研が地道に行ってきたことが研究の成果です。

競馬の主役であるサラブレッドに関しては、これまでに多くの科学的知見が蓄積されています。それらを馬科学情報として発信することも私たちの役目です。総研のホームページでは、サラブレッドをより深く理解していただけよう、サイエンスに基づいた「馬の用語事典」を公開しています。

次回からサラブレッドのからだ、行動、走り、能力、特長などの解説を中心としてサイエンスの香りがするコラムにしていきたいと考えています。それらが競馬の合間の話題になれば幸いです。



これが、サラブレッドを研究する秘密基地(?)、JRA競走馬総合研究所だ！

総研HP <http://www.equinst.go.jp/>